



学校だより
ながや

令和5年 10月30日
横浜市立永谷小学校
校長 神田 敏之

「〇〇したい」を大切に

高学年マネジャー 星野 敦史

「もっと指先まで伸ばして大きく演技したりした方がいいと思います。体全体でリズムをとりましょう！」

澄み渡るような青い空の下、10月14日に「永谷スポーツフェスティバル2023」が開催されました。当日のたくさんのご参観ありがとうございます。また、当日に至るまでたくさんのお力添えを保護者の方にいただきました。心より感謝申し上げます。

子どもたちが一生懸命力合わせて行事に取り組む様子はいかがでしたでしょうか。「がんばるぞ!」「楽しいな!」「勝ってうれしい」「負けて悔しい」子どもたちのたくさんの「本気」の表情をご覧いただけたと思います。大勢の生き生きとした素敵な表情に出会えるのも運動会の魅力です。そして、その表情は当日に至るまでの過程があってこそだということもご理解いただけたと思います。

子どもたちが「本気」の表情になっていくのに欠かせない思いがあります。それは子どもたち自身の「〇〇したい」という思いです。私はスポフェスまでの準備期間、たくさんの「〇〇したい」の思いがあふれる場面に出会いました。冒頭の言葉は、5年生の演技練習で、実行委員の子どもたちが全員に向けて話していた場面の一コマです。職員はアドバイスをする程度で、子どもたち主体で練習を進めます。5年生は演技する曲や振り付けを子どもたちがアイディアを出し合い、構成しました。「自分たちの作った素敵な演技にしたい。」そんな思いが伝わってきて、自分たちの力で学び成長しようとする姿に感動しました。「〇〇したい」という思いは子どもたちの「自分からパワー」につながるのだと再認識させられるシーンでした。

はじめての運動会を楽しみたいと、教室でもエビカニクスを踊ってウキウキしている1年生。自分で作った楽器を大切そうに使って演技を練習する2年生。「先生、あやとびができたんだよ。毎日練習しているの。」と中休みに時間を惜しんで縄を跳んでいた3年生。家にパーランクーを持って帰り、休み時間には音楽をかけて踊る4年生。伝統の半纏はんてんに身を包み、最上級生というステージで最高の演技をしたいと筋肉痛と戦いながら必死にソーラン節を練習する6年生。休み時間に夢中になって練習する応援団、リレー選手。当日だけでなく、そこに至るまでの「〇〇したい」の思いが結実したのがスポフェスでの子どもたちの表情です。

「△△しなきゃいけない」「▲▲しなさい」うまく事を運ぶためには、日々の中でこういった言葉が多くなります。しかし、スポフェスのときのように、子どもたちが本気になり主体的に学び、成長していくことほど喜ばしいことはありません。私たちは様々な場面で子どもたちの「〇〇したい」という思いが生まれるようにいろいろな工夫やアプローチをしています。子どもたちの「〇〇したい」を引き出すのはとても難しいですが、そのひと手間こそが何よりも子どもたちの主体性と素敵な姿を引き出す近道だからです。

11月にはミュージックフェスティバルがまっています。学習も積み重なり深まってきます。たくさんの子どもの千差万別な「〇〇したい」の思いが、たくさんあふれるように職員一同で取り組んでまいります。



今年度は子どもたちの様子についてホームページも活用してお知らせします。
月1回程度を予定していますので、「学校日記」等のページをご覧ください。